

【投 稿】

名誉会員の眞田良典氏、 塚田 努氏が博士(獣医学)学位取得される

永 幡 肇
(酪農学園大学)

北海道獣医師会会員である塚田 努氏および眞田 良典氏には、酪農学園大学大学院獣医学研究科の研究生として研鑽されてこられました。提出されていた学位論文が審査受理され、平成21年6月30日に酪農学園大学から博士(獣医学)学位が授与されました。これまでの研鑽に敬意を表するとともに心からお祝いを申し上げます。お二人の学位論文の主査および副査を担当させていただきましたので、ここに論文題目と論文内容の概要を紹介させていただきます。

塚田 努 (生年月日1932年8月9日)、論文題目：
軽種馬の繁殖成績向上に関する研究(酪論博獣70号)

本論文は、軽種馬の子馬生産計画の達成と密接な関連を有する繁殖成績の向上を目的として、1章で、軽種馬の繁殖能を評価するため、年齢、交配頭数、品種、産地、繋養組織および繋養地等の繁殖に係わる要因の相互関連性を検討した。2章では、繁殖用雌馬の卵胞発育障害に有効な治療法として、外因性高単位性腺刺激ホルモン製剤の複合投与効果を検討した。3章では、子宮感染症に

最適な抗生物質製剤を選択し早期治療を促すため、繁殖季節の不受胎馬初回交配前発情期と非繁殖季節の不受胎馬から採取した子宮頸管粘液の微生物学的検索を実施した。成果として、軽種馬の繁殖能には数的要因である交配頭数の増加が生産率の低下を招来せず、それ以外の繁殖に係わる形質的な要因の関与を主成分分析等により立証した。軽種馬の卵胞発育障害に対して高単位胎盤ホルモン製剤混合投与により発情誘起率および排卵率が高くなり、受胎率が向上することを明らかにした。繁殖用不受胎馬の生殖器分泌物の細菌学的状況を分析し、薬剤の適正使用による耐性菌制御の意義を改めて提示した。(学位論文に関連した発表論文：家畜学誌(2008)33:137-142. *J. Equine Sci.* (2008) 19:31-34. *J. Equine Sci.* (2008) 19:35-38.

眞田 良典 (生年月日1928年11月20日)、論文題目：
馬葉状条虫症の疫学的調査と診断的駆虫および中間宿主ササラダニに関する研究(酪論博獣71号)

本論文は、1章で、北海道日高地方における馬を対象に葉状条虫の寄生実態を明らかにするとともに、糞便検査成績と剖検後の寄生虫寄生率との比較を実施した。2章では、駆虫薬パモ酸ピランテルおよびビチオノール製剤を用いた診断的駆虫を実施しその意義を検討した。3章では、本寄生虫の中間宿主であるササラダニについて、当該地方の草地においてその種類および分布状況を検討した。成果として、馬における葉状条虫の寄生実態が明らかにされ、パモ酸ピランテルおよびビチオノール製剤を用いた診断的駆虫法が葉状条虫症の診断および防除に極めて有用であることが示された。また本条虫の中間宿



塚田 努 氏



眞田良典 氏

主であるササラダニについて、草地におけるその生態の諸相が明らかになった。これらの学術的価値は高く馬葉状条虫の効果的な駆虫および防除への応用が期待される。

(学位論文に関連した発表論文：日獣会誌 (1998) 51 : 495-498. 日本ダニ学会誌 (1999) 8 : 159-163. *J. Vet. Med. Sci.* (2009) 71 : 617-620.

学位を取得された塚田 努氏は牡馬の生産性の評価に着眼され、長年にわたり多頭数の交配記録をもとに、継続して種馬の評価と関連の調査を行い論文に纏められました。また眞田良典氏は研究歴として本学の研究生として5年間、前大学の22年間を合わせると27年間と長期に渡り研鑽を積まれました。お二人とも診療とともに調査研究を行い記録しつつ誌上に公表されてきたことがこの度の学位論文の作成と評価につながったものと思われます。ご高齢での学位取得、誠に慶賀に堪えません。ご健康で益々のご研鑽に励まれるとともに一層の後進の指導を期待して報告と致します。